

グローバルGX関連株式ファンド

愛称：The GX



足元の基準価額の下落について

平素より「グローバルGX関連株式ファンド 愛称：The GX」（以下、当ファンド）をご愛顧賜り厚く御礼申し上げます。当ファンドの投資助言を行うTTインターナショナル・アセットマネジメント・リミテッド*の情報等を基に、運用環境や運用方針等についてご紹介いたします。

*TTインターナショナル・アセットマネジメント・リミテッドは、委託会社の親会社である株式会社三井住友フィナンシャルグループの子会社（100%出資）です。

環境関連銘柄は好業績見通しながらも下落

- 当ファンドの基準価額は、好調な企業業績や米バイデン政権の環境政策の具体化などを背景に、2021年11月中旬までは概ね堅調に推移し、ファンド設定来高値まで上昇しました。
- その後2022年1月下旬にかけては、インフレや米国の早期利上げに対する懸念などから、株価が堅調に推移してきた環境関連銘柄や高PER銘柄が大幅に下落し、当ファンドの基準価額は2022年1月28日現在、2021年11月15日の設定来高値（11,926円）から約28%下落しました。

＜当ファンドの基準価額と世界株式（円ベース）の推移＞
（2021年5月28日（設定日）～2022年1月28日、日次）



＜パフォーマンス寄与度上位5銘柄および騰落率（%）＞
（2021年5月28日（設定日）～2021年11月15日）

順位	銘柄（国名）	騰落率	寄与度
1	エンフェーズ・エナジー（米国）	71.1	3.1
2	テトラ・テック（米国）	50.7	2.0
3	陽光電源（中国）	65.7	1.8
4	CATL（中国）	51.4	1.5
5	ブラグ・パワー（米国）	36.2	1.5

＜パフォーマンス寄与度下位5銘柄および騰落率（%）＞
（2021年11月15日～2022年1月28日）

順位	銘柄（国名）	騰落率	寄与度
1	エンフェーズ・エナジー（米国）	▲ 49.4	▲ 2.8
2	ブルーム・エナジー（米国）	▲ 55.3	▲ 2.3
3	ブラグ・パワー（米国）	▲ 55.1	▲ 2.3
4	チャージポイント・ホールディングス（米国）	▲ 53.0	▲ 1.7
5	ショールズ・テクノロジー・グループ（米国）	▲ 60.5	▲ 1.6

（注1）世界株式はMSCI AC World インデックス（配当込み）、当ファンドのベンチマークではありません。

（注2）当ファンドの基準価額算出時の外貨建て資産の円換算には、基準価額算出日前日（休日の場合はその直近の最終取引日）の株価と、基準価額算出日の為替レートを使用しています。そのため、上記の世界株式（円ベース）についてもこの計算方法に沿って、基準価額算出日前日の指数値と株価、基準価額算出日の為替レートから円換算値を算出しています。

（注3）寄与度は各銘柄の現地通貨ベースのトータルリターンがマザーファンドの基準価額に与えた影響度の概算値。

（出所）Bloombergのデータを基に委託会社作成

※ 上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

※ ファンド購入時には、購入時手数料がかかる場合があります。また換金時にも費用・税金などがかかる場合があります。詳しくは7ページをご覧ください。

今後3年間の年平均成長率見通しは概ね堅調な見込み

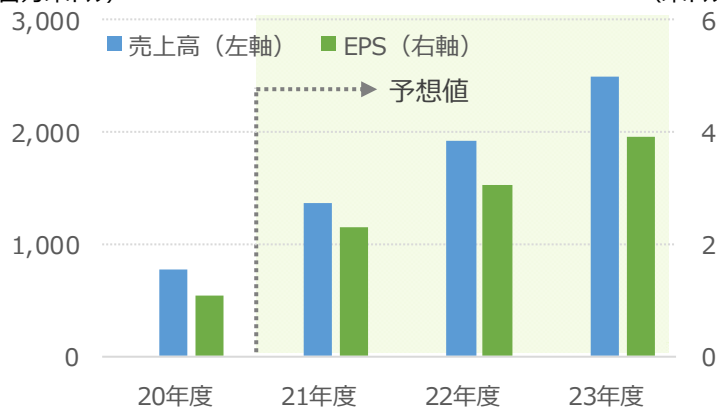
- 足元の株価は大きく下落しているものの、今後3年間の売上高やEPSの年平均成長率の見通しは概ね堅調な見込みです。今後、市場が落ち着きを取り戻すにつれ、業績見通しを反映した株価の上昇が見込まれます。

エンフェーズ・エナジー（米国）

投資テーマ
エネルギーのクリーン化

組入比率第1位：4.8%

(百万米ドル) <売上高とEPS（1株当たり利益）の推移> (米ドル)



年平均成長率見通し
(21年度～23年度)

売上高	EPS
47.8%	53.0%

- 太陽光発電向けにマイクロインバーター、バッテリー、関連製品の設計・製造。
- エネルギーのクリーン化の流れにより急成長する、住宅向けソーラー市場の恩恵を享受。
- マイクロインバーター市場のマーケットリーダー。

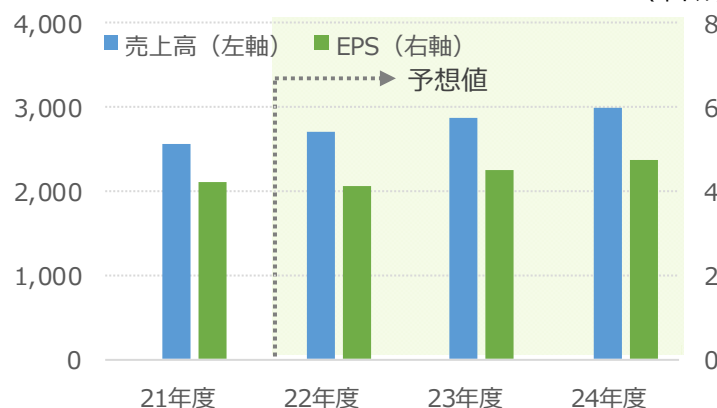


テトラ・テック（米国）

投資テーマ
限られた資源の活用

組入比率第2位：4.8%

(百万米ドル) <売上高とEPS（1株当たり利益）の推移> (米ドル)



年平均成長率見通し
(22年度～24年度)

売上高	EPS
5.4%	4.1%

- 水処理や再生可能エネルギーなど、環境関連に特化したコンサルティングサービスを提供。
- 環境規制の強化、再生可能エネルギーや水の汚染処理に対する需要増加等により、事業機会の拡大に期待。



(注1) 組入比率、順位は2021年12月末現在。また、売上高とEPSの予想は2022年1月26日現在のBloomberg予想。

(注2) エンフェーズ・エナジーは12月決算、テトラ・テックは9月決算。

(注3) 投資テーマの名称は委託会社が独自に設定したものです。今後、変更される場合があります。

(出所) Bloombergのデータを基に委託会社作成

※写真はイメージです。

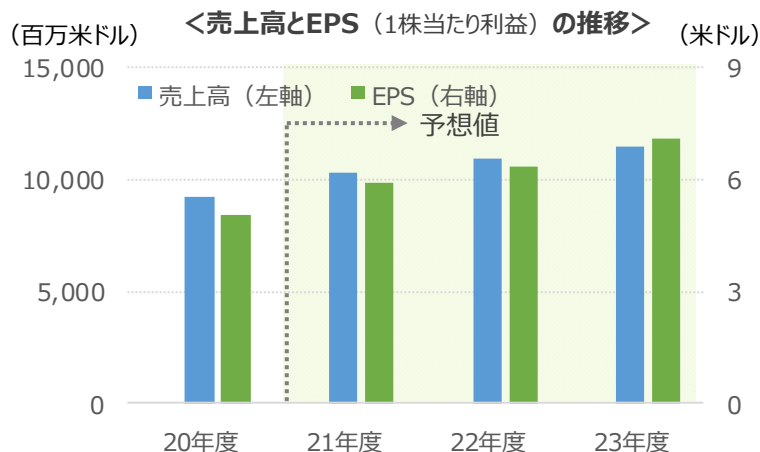
※上記は組入銘柄の例であり、当ファンドにおいて今後も当該銘柄の保有を継続するとは限りません。また当該銘柄を推奨するものではありません。

※上記は過去の実績および将来の予想であり、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

ロイヤルDSM (オランダ)

投資テーマ
脱炭素技術の進化

組入比率第3位：4.3%



- 家畜向け配合飼料や機能性食品など、ソリューション提供型の付加価値の高い製品を提供。
- メタンガス削減に貢献する製品の開発など、サステナビリティに貢献する領域に集中投資し、事業を拡大。



年平均成長率見通し
(21年度～23年度)

売上高	EPS
7.2%	12.1%

<ご参考>

今後3年間のEPSの
年平均成長率予想

当ファンド	22.9%
世界株式	10.5%

(注1) 組入比率、順位は2021年12月末現在。また、売上高とEPSの予想は2022年1月26日現在のBloomberg予想。

(注2) ロイヤルDSMは12月決算。

(注3) 投資テーマの名称は委託会社が独自に設定したものです。今後、変更される場合があります。

(注4) 当ファンドのEPS年平均成長率は、2022年1月26日現在のポートフォリオ構成銘柄における米ドルベースのデータを各銘柄の組入比率で加重平均して算出。当ファンド、世界株式ともに会計年度ベース。

(出所) Bloombergのデータを基に委託会社作成

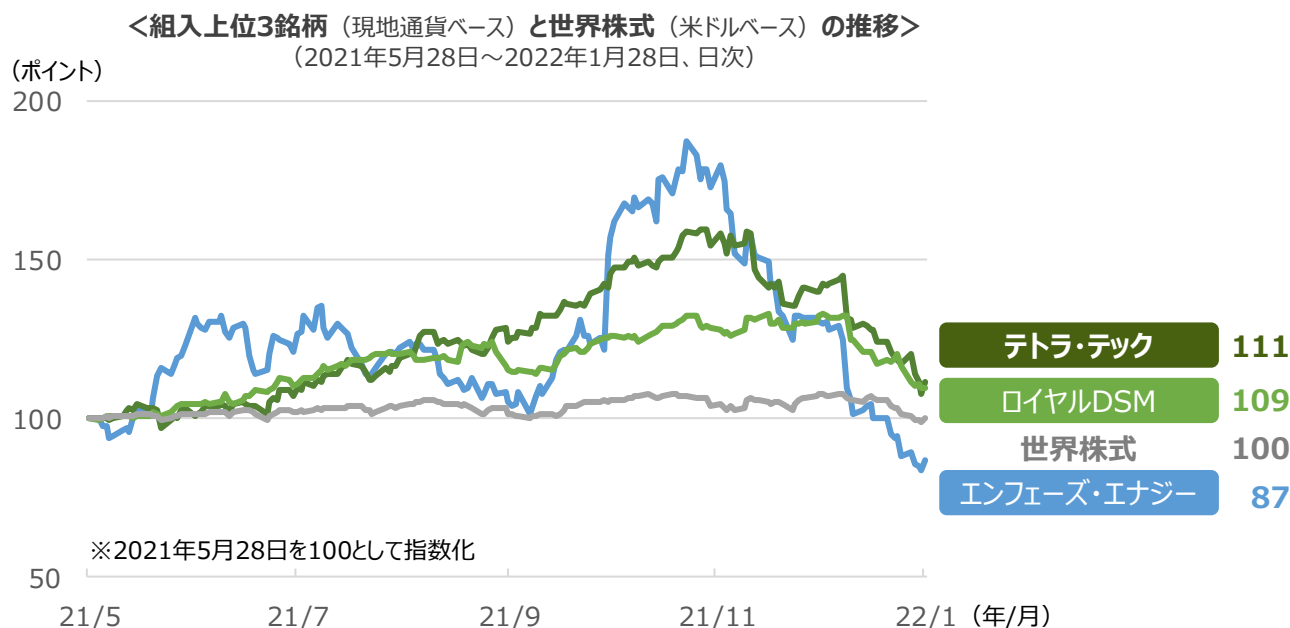
※写真はイメージです。

※上記は組入銘柄の例であり、当ファンドにおいて今後も当該銘柄の保有を継続するとは限りません。また当該銘柄を推奨するものではありません。

※上記は過去の実績および将来の予想であり、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

今後の市場見通し

- インフレ懸念などを背景に、米連邦準備制度理事会（FRB）は金融引締め姿勢をより明確にしています。更に地政学的にはウクライナ情勢に対する懸念も高まっています。長期金利の上昇や潤沢な流動性の巻戻しの懸念から、市場ではグロース（成長株）関連を中心に売り圧力が強まっていますが、**テクニカル的な指標や投資家心理からは、足元の株価は既に売られ過ぎの水準に近付いている**とみています。
- 当面市場は不安定な展開が続くと想定されますが、今後GX関連銘柄の決算発表が本格化する2月末から3月にかけては、GX関連企業のファンダメンタルズの堅調さが再び注目されると判断します。**GX保有銘柄の中長期的なテーマの魅力度は不変であり、現在の株式市場調整局面は買い場**になると見込んでいます。



運用方針

- マクロ環境や地政学的な環境が不透明な状況下、政策の後押しによる市場成長が期待され、かつ高い競争力を有するGX関連銘柄の業績は、相対的に良好な状況が続くと考えます。
- 当ファンドは、長期的に高成長が見込まれるGX関連銘柄の中でも、「質の高い」銘柄に厳選投資を行います。具体的には、以下の3点を重視します：
 1. GX分野における、売上やキャッシュフロー成長の確実度が高いこと
 2. 将来において、マーケットリーダーとしての地位を確立できると考えられること
 3. 既に大手企業とパートナーシップを持つなど、実績・知名度があること

（注1）世界株式はMSCI AC World インデックス（配当込み）、当ファンドのベンチマークではありません。

（注2）各銘柄の株価は配当込み。ロイヤルDSMはユーロベース、それ以外は米ドルベース。

（出所）Bloombergのデータを基に委託会社作成

※上記は2022年1月28日現在の組入銘柄の例であり、当ファンドにおいて今後も当該銘柄の保有を継続するとは限りません。また、当該銘柄を推奨するものではありません。

※上記は当資料作成時点における見通しおよび運用方針であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものでもありません。見通しおよび運用方針は今後、予告なく変更される場合があります。

ファンドの特色

1. グローバルGX関連株式マザーファンド（以下「マザーファンド」ということがあります。）への投資を通じて、主として世界の株式の中から、環境に関する技術の進化や政策の変化に関して成長が期待できるGX（グリーン・トランスフォーメーション）関連企業の株式に投資します。
 - 不動産投資信託（リート）、預託証券（DR）等に投資する場合があります。
 - 銘柄選定にあたっては、環境等の成長分野やアジア・新興国などの成長地域の調査・分析に強みのある、TTインターナショナル・アセットマネジメント・リミテッドからの投資助言を活用します。

* GX（グリーン・トランスフォーメーション）とは
当ファンドでは、先端技術を活用して、二酸化炭素（CO2）の排出量の増加や海洋プラスチックごみ等による環境問題を解決し、持続可能な社会を実現させることをいいます。
 2. 実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
 - 基準価額は為替変動の影響を受けます。
- ※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の**投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた**利益および損失は、すべて投資者に帰属**します。
- 投資信託は**預貯金と異なります**。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 株式市場リスク

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 信用リスク

ファンドが投資している有価証券や金融商品に債務不履行が発生あるいは懸念される場合に、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 為替変動リスク

外貨建資産への投資は為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する（円高となる）場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

■ カントリーリスク

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。特に投資先が新興国の場合、その証券市場は先進国の証券市場に比べ、より運用上の制約が大きいことが想定されます。また、先進国に比べ、一般に市場規模が小さいため、有価証券の需給変動の影響を受けやすく、価格形成が偏ったり、変動性が大きくなる傾向が考えられます。

■ 流動性リスク

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

投資リスク

その他の留意点

〔分配金に関する留意事項〕

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- ファンドは、特定の業種・テーマに絞った銘柄投資を行いますので、市場全体の動きとファンドの基準価額の動きが大きく異なることがあります。また、市場環境、金利および経済・法制度・金融面の諸情勢が、特定の業種・テーマに対して著しい影響を及ぼすことがあります。当該業種・テーマに属する銘柄は、これらの情勢等に対して同様の反応を示すことがあります。
- 投資対象国によっては、有価証券の売買を行う際の売買益等に対して課税される場合があります。将来、これらの税率や課税方法が変更された場合、または新たな税制が適用された場合、基準価額に影響を及ぼすことがあります。
- 投資資産の市場流動性が低下することにより投資資産の取引等が困難となった場合は、ファンドの換金申込みの受け付けを中止すること、および既に受け付けた換金申込みを取り消すことがあります。

お申込みメモ

購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額

購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。

信託期間

2031年5月12日まで（2021年5月28日設定）

決算日

毎年5月12日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配金額を決定します。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

お申込不可日

以下のいずれかに当たる場合には、購入・換金のお申込みを受け付けません。

- ニューヨークの取引所の休業日
- ニューヨークの銀行の休業日

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
購入価額に**3.30% (税抜き3.00%) を上限**として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 信託財産留保額
ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）
ファンドの純資産総額に**年1.584% (税抜き1.44%)**の率を乗じた額です。
- その他の費用・手数料
以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。
 - 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
 - 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
 - 資産を外国で保管する場合の費用 等
 ※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。
 ※監査費用の料率等につきましては請求目論見書をご参照ください。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	<p>ファンドの運用の指図等を行います。</p> <p>三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号</p> <p>加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会</p> <p>ホームページ： https://www.smd-am.co.jp</p> <p>コールセンター： 0120-88-2976 [受付時間] 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）</p>
受託会社	<p>ファンドの財産の保管および管理等を行います。</p> <p>三井住友信託銀行株式会社</p>
販売会社	<p>ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。</p>

販売会社								
販売会社名		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 金融商品取引業協会 第一種	日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 投資信託協会	備考
a u カブコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○		
S M B C 日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○		※1
株式会社 S B I 証券	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○	○		○		
香川証券株式会社	金融商品取引業者	四国財務局長（金商）第3号	○					
木村証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第6号	○					
静岡東海証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第8号	○					
第四北越証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第128号	○					
八十二証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第21号	○		○			
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第152号	○		○			
フリップ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第127号	○			○		
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第164号	○			○		
明和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第185号	○					
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○		
株式会社大東銀行	登録金融機関	東北財務局長（登金）第17号	○					
株式会社富山第一銀行	登録金融機関	北陸財務局長（登金）第7号	○					
P a y P a y 銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第624号	○			○		

備考欄について

※1：「ダイレクトコース」でのお取り扱いとなります。

【重要な注意事項】

- 当資料は三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および目論見書補完書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。投資信託説明書（交付目論見書）、目論見書補完書面等は販売会社にご請求ください。
- 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

作成基準日：2022年1月28日